

縄文時代の遺跡分布

氷河時代が終わり気温が温暖になると、櫛挽台地上に椎や檜などの広葉樹林が広がり始めます。人々は椎や檜などの木の実を灰汁(あく)を抜いて食べるため土器を作り始めます。



▲ 竪穴式住居跡(上本田遺跡)

定住するために竪穴住居を作り、矢じりを装着した弓矢も発明されて、小さな動物も捕れるようになりました。

人々が最初に住み始めた縄文時代草創期(約12,000年前)

は、西谷・水久保遺跡(針ヶ谷)①、宮林遺跡(黒田)

②などで、生活の痕跡が見つっています。

草創期から早期にかけての尖頭器が東方城跡③で確認されています。



▲ 尖頭器※ (東方城跡)

※木の柄につけて投げ槍とし、大型獣の狩りに用いられたのが槍先形尖頭器の始まりで、狩猟に大きな進歩をもたらした。旧石器時代から縄文時代まで用いられた。

早期(約8,000年前)になると、北坂遺跡(本郷)④、四反歩遺跡(本田)⑤など、前期(約6,000年前)では、台耕地遺跡(黒田)⑥、東光寺裏遺跡(後榛沢)⑦など見つっています。現在の深谷市域でいうと、やや標高の高い所を選んで住んでいるのが分かります。



▲ 縄文土器 (上本田遺跡)

中期(約5,000年前)になると、高台の水を利用しやすい土地を選んで、生活を始めます。台耕地遺跡(黒田)⑧では環状集落が見つかり、他に小台遺跡(上野台)⑨、上本田遺跡(本田)⑩などが地域ごとの中心集落として出現します。

縄文時代後期(約4,000年前)になると、集落の分布が北部の妻沼低地へと移っていったことが遺跡の位置でわかります。例として宮ヶ谷戸遺跡⑪、上敷免遺跡⑫などが挙げられます。

縄文時代晩期(約3,000年前)の遺跡は、土偶や耳飾りなどのお祭り道具が出土し、原ヶ谷戸遺跡(岡)⑬、上敷免遺跡北⑭、橋屋遺跡(小前田)⑮などの遺跡があります。